

令和4年度 紋別市立紋別中学校 改善プラン

生徒の実態

□全国学力・学習状況調査の結果から
＜平均正答率＞

教科	紋別中	北海道	全国
国語	70.0	69.0	69.0
数学	45.0	49.0	51.4
理科	49.0	49.0	49.3

- 国語の平均正答率は、全国平均を超えている。問題別調査結果では、【区分】情報の扱い方に関する事項の平均正答率が36.2%で全国平均は46.5%。【区分】書くことの平均正答率が36.2%で全国平均は46.5%と約10%低い結果となっている。
- 数学の平均正答率は、全国平均から6.4%低い。問題別調査結果からも、【区分】A数と式では、全国平均57.4%に対して自校44.8%。評価の観点【区分】思考・判断・表現の全国平均36.2%に対して自校26.2%。問題形式【区分】記述式の全国平均36.2%に対し自校26.2%と10%低い結果となっている。
- 理科の平均正答率は、全国平均とほぼ同等である。【区分】「粒子」を柱とする領域では、全国平均50.9%に対して自校54.5%と3.6%高いが、【区分】「生命」を柱とする領域では、全国平均57.9%に対して自校54.5%と3.4%低い結果となっている。

本校の課題

- ①各教科の専門的な知識・技能を活用し、課題を解決すること
- ②既習事項を使いこなすこと
- ③問題文から資料、条件、図からの読み取り、言語化すること
- ④自分の考えを筋道を立てて、相手にわかりやすく伝えること

実践のポイント

学力向上にかかわる学校経営推進上の重点

教育課程の工夫

- 基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を目指す指導計画の作成・実施・評価・改善
※標準学力検査、チャレンジテストの活用
- 学力向上プランの作成
※**教科別の学力向上策の実施**・評価・改善
- 朝読書の充実を図る
- 授業時数の確保

学習指導の工夫

- 学習環境を作る（学習規律の定着等）
- 指導技術を磨く（ゴールを見通した授業）
- 指導方法を工夫する（主体的で対話的な学習）※説明時間の短縮 ※ロードマップ活用
- 補充学習の実施（定着を図る場面設定）
- 全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの活用の充実

校内研修・組織の工夫

- 研修を中心とした授業研究による研究協議や校内研修を通して**教職員の授業力向上**
- クロームブックを活用した、「個別最適な学び授業」を目指した**授業改善**
- 生徒指導部と連携した教育相談の充実
※Q-U、アセス等の活用

家庭との連携

- 電子メディアの使用時間の制限
- 家庭学習の取組推進（宿題の指示）
- 個別相談等の実施
- 生活リズムチェックシートの活用
- 学校・学年だより等による情報発信
- タメベンの活用促進

各教科の取組

【国語科】

①④「自分の考えが分かりやすく伝わるように話すための工夫とその意図を記述すること」に課題があったことから、授業内で ICT 機器を活用してスピーチの様子を動画で録画し自分のスピーチを振り返ったり、単元のまとめの活動を通して、工夫したことを確かめる言語活動を行い、自分の話す内容や話し方、なぜそのように工夫したのか、その意図を明確に記述として表現すること言語活動の実践。

①③意見と根拠の整理、資料から必要な部分（根拠）を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合う活動の実践。

②既習事項の定着のための復習の繰り返しと学習サポーターとの積極的な連携

【数学科】

①③について

数と式の分野において素因数分解の必要性や方程式の解の意味など、技能の習得に終始しないような指導が必要である。また他教科との関連もあるが、問題文にある条件や内容と表やグラフ、図に示されていることとの関連を見いだすような指導も必要である。具体的な方策としては数学の世界における事象に対する問題を解決していくような授業が望ましい。

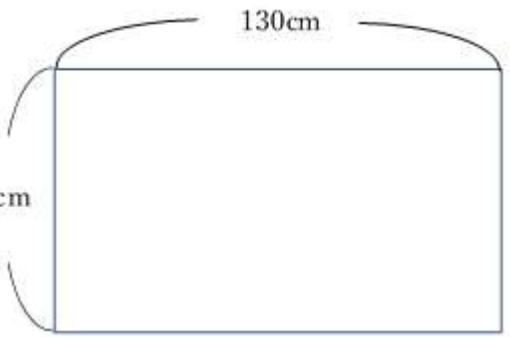
※（例 1）参照

（例 1）素因数分解 3 / 4 時間目

<問題>

右の図のような長方形の紙がある。この紙を余りが出ないように、なるべく大きな正方形で切り分けたい。

1 辺が何 cm の正方形で切ればよいだろうか？



5 板書計画

<問題> ※図は TV 投写 何 cm ずつに 2 でも割り切れるよ？ （予想）26cm どうやって考えた？ ⇒両方とも 26 で割り切れる 2 数の最大公約数が 26 $130 - 26 \times 5 = 2 \times 13 \times 5$ $78 - 26 \times 3 = 2 \times 13 \times 3$ 共通する素因数が最大公約数！	素因数分解によって、最大公約数を見つけよう <確認> 2 数の最大公約数を答えよ (1) 35 と 91 $35 = 7 \times 5$ したがって $91 = 7 \times 13$ 7 (2) 28 と 84 $28 = 2 \times 2 \times 7$ したがって $84 = 2 \times 2 \times 3 \times 7$ $2^2 \times 7 = 28$	<追加> 60 と 72 の最小公倍数を素因数分解をして求めなさい 教科書 P21 章の問題 4 $84 = 2^2 \times 3^2 \times 7^2$ これに何をかければ、21 になる?? ⇒3 と 7 をかけると $2^2 \times 3^2 \times 7^2 = (2 \times 3 \times 7) \times (2 \times 3 \times 7)$ したがって 21 をかける
--	---	---

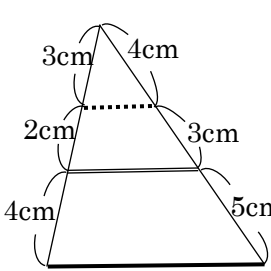
②④について

具体的な事象を数学の知識・技能を使って解決するような指導が必要である。そのために説明や証明の書き方に終始することなく、文字を使った式ですべての場合を1つの式で説明できることによさや、結論を導くために、与えられた条件や性質をもとに筋道を立て説明し、その妥当性を検証するなど、数学の知識・技能を使って解決することのよさや必要性を実感できるような日常的な授業づくりが必要である。具体的な方策としては日常の世界における事象を数学の知識を用いて解決する良さを実感できるような授業が望ましい。

※(例2) 参照

(例2) 相似な図形 2節線分と比 2/6 時間目

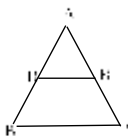
<問題>
3つの直線
..... |||| ———
は平行だろうか？



<問題>
3つの線分が平行らしく板書する

(予想)
平行かどうかどうやって確かめる？
⇒錯角・同位角が等しい
いと言えたら平行
三角形の相似を示してから

相似の関係から平行であることを導こう



BC//DE・・・OK!
△ABCと△ADE
∠A共通 AB:AD=9:3 AC:AE=12:4
2組の辺の比とその間の角が等しい
BC//FG・・・ダメ!
△ABCと△AFG
∠A共通 AB:AD=9:5 AC:AE=12:7
したがって BC//DE

△ABC∽△ADE △ABC∽△AFG
の結果で△ADE∽△AFGが決まるね

<三角形と比の定理>
ピラミッド型×2
蝶々型×1
を板書する

中2の教科書 TV投影

教P154 問5、6

【社会科】

- ①②単元構成を工夫して単元を貫く学習課題を設定することで、既習事項（知識・技能）を使いこなして解決する場面をつくること。
- ③教科書の読み取りを日常的に積み重ねつつ、資料や図表・条件の読み取りが必要となる問題・課題を設定できるように、単元構成・授業構成を工夫すること。
- ④ペア・グループで自分の考えを相手に伝える場面を設定し、文例や定型を示すことにより、自分の意図に合わせて伝える活動を取り入れること。

【理科】

- ①②に関しては、知識・技能の確実な定着を図る。そのために、授業中の復習や振り返りを必要に応じて行っていく。知識・技能が身についたうえで、課題の解決や既習事項の活用につなげていく。また、課題解決に向けて、実験レポートの活用を行う。
- ③問題文の読み取りは、日頃の授業から様々な資料の読み取りなどを通し、読み取り方を身につけ

させる。また、言語化の際には、自分の考えを言葉で表現できるように、使うべき語句等を確認し、指導を進めていく。

④筋道を立てて考えられるように、何から考えていくと良いのかを順序立てて考えられるように指導する。何を考えると結論につながっていくのかを考えられるように、授業の構成を工夫していく。また、相手にわかりやすく伝わるように、伝わる文章を組み立てられるような授業づくりを行う。

【英語科】

- ①単元のゴールのために本時の授業でどのような力を身につけなければならないのか明確にする。
- ②既習事項を用いたスモールトークや帯活動を積み重ねる。
- ③教科書本文から必要な情報を引き出す活動。(True or False や QandA など)
- ④文の構成を考えさせ、自分の思いや考えを伝える writing 活動の充実化をはかること。既習事項を用いた活動になるような writing 活動のテーマを設定すること。

【保健体育科】

- ①実技の授業で、作戦やチームの課題を改善する活動を取り入れる。その際に、今までに学習したことを活用して解決できるような展開をする。
- ②は1と同様に。
- ③保健の授業等で取り入れるようにしている。スキャモンの発育曲線やカーラーの救命曲線などから読み取れることを考えるようにしている。
今後は実技などでもデータを活用できるような場面を見つけていく。
- ④実技の評価資料などで相手に伝わるような書き方をするように伝えている。「いつ」「どこで」「どのように」「どうして」などという言葉や、「理由や根拠を明確」にかけるようにしようなどと伝え、楽しかった、難しかっただけの記述にならないように声掛けをしている。仲間とのやり取りについては「できている」「できていない」だけでなく「視点」を与えたりしながら、「どこが」できていない。や「どこが」いいなどいえるように伝えている。ただ、伝えているだけでそれができているかどうかはあまり全体にフィードバックできていないのでそのフィードバックできるかが教師の課題と感じる。

【音楽科】

- ①読譜力や音楽的な感性を働かせ、実技をどう高めていくかというような流れで、課題を解決させる授業を行っているので、今後も継続していく。
- ②は①と同様。
- ③音楽科でこのような活動をするのが少ない。強いというなら、創作の活動時、条件に沿った内容で進めるような活動をしていくことは行っている。限定的ではあるが、その内容を減らさないように努めていく。
- ④ふり返りで、今日学んだことと振り返り（自己調整）を伝わりやすく書くように指導している。ただ、理解できていない生徒もいて、ただの感想になってしまうため、継続的に視点を伝えていく。
また、鑑賞の授業では、既習事項＋自分が感じたことをふまえて、曲の魅力を紹介する文章を作る活動も行う。その中でも、筋道をたてて相手にわかりやすく書くように指導する。

学校の取組

- 全国学力・学習状況調査の調査結果について、教務部が中心となり、全職員で分析・検討を行い、学力向上プラン作成・見直しをする。全職員で共通理解を図り、効果的・効率的な指導体制について検討する。
- 放課後や長期休業中に、補充的学習を取り組み、基礎・基本の定着とともに発展的な問題なども取り組み、個に応じた指導に努める。(タメベンの利用促進)
- 各教科担当においては指導内容・学習進度・学習評価に関する情報を教務主任等と共有し、校内研修と連動した、学力の向上を図る教科指導の充実に努める。
- 全ての教科(教諭)において年1回以上の研究授業を実施し、「本校における学力向上の取組」の徹底を継続する。
- 全学級において「朝読書」の取組を推進するとともに、学校図書館の活用を促進して「活字に親しむ」習慣の定着に努める。
- 進路指導と関連させ、中学校卒業後の進路、そして将来の夢について考えさせ、自己実現のために学習の取組を充実させる。

評価方法

- R5全国学力・学習状況調査の結果を分析する。
- 標準学力テスト(NRT・CRT)、学力テスト(文化協会)や定期テスト等の結果を分析する。
- 学力向上の取組に関する自己評価や生徒アンケート等を実施する。その結果を分析し、成果と課題の共通理解を図る。